

★JAXA・やまぐち宇宙教育推進事業★

★活動レポート②★

山口県教育庁
社会教育・文化財課
2019年07月07日

☆下関市に「宇宙の学校」がやってきた！☆

7月7日（日）下関市菊川ふれあい会館にて、「第1回宇宙の学校」が開催されました。年長から小2の子どもたちとその家族を対象としている「宇宙の学校」には、このたび280組を超える応募があり、その中からの50組145人の家族が参加しました。会場は、宇宙に興味のある子どもたちの熱気に包まれ、講師である「子ども・宇宙・未来の会（通称：KU-MA）」の会長、並木 道義氏の解説に、引き込まれていきました。

☆みんなの思いがこもった熱気球！☆

「飛ぶ種子を作ろう」では、子孫を残すために遠くまで飛んでいく植物の種子の様子を、スチロールペーパーとコルクを使って再現していきました。家族で形を工夫しながら作成し、くるくると回転してゆっくりと降りていく姿を、子どもたちは何度も何度も楽しんでいました。

「熱気球を飛ばそう」では、ボランティアスタッフのアドバイスをともに、子どもたち同士が協力して活動しました。袋に穴を開けてしまっても、みんなで手伝ってふさいでいく姿が見られ、「飛ばしたい」という目的に向け、グループが一つになっていきました。

ドライヤーで暖かい空気を充満させていくと、子どもたちの期待もどんどん膨らんでいきます。そして「3・2・1・発射！」の掛け声で、会場は大きな歓声に包まれました。会場の天井まで勢いよく上昇していく様子を見つめる子どもたちの目は、キラキラと輝いていました。

☆参加者の感想より☆

- 熱気球は、なかなかできない体験で面白かったです。降りてくるまで、みんなで見守っている時間がすてきでした。
- グループで協力して熱気球を飛ばすことが楽しかったです。子どもたちが作ったものが、実際に飛ぶことができて感動しました。
- 熱気球を作る途中に穴が開いて、それを他のお友達がテープを張ってくれて協力し合えたことも、良い経験となったようです。上がった熱気球を見て、とても嬉しがっていました。
- ボランティアの方が、丁寧に教えてくださったので、スムーズに工作ができました。
- 子どもの表情がきらきらしていました。子どもとの会話の中で、自然のことや宇宙のことなどいろんな疑問があっても、それにうまく応えてあげられないのですが、今はその気持ちを大切にしていってあげたいなと思いました。

